

みずか まな つづ こ
自ら学び続ける子どもを

そだ
育てるために

かていがくしゅう
～家庭学習のすすめ～



西川町教育委員会
西川町学校教育センター

はじめに 1

にしかわまち こ すがた
西川町がめざす子どもの姿

1 生活面における子どもの姿 4
幼児 児童 生徒

2 学習面における子どもの姿 5
幼児 児童 生徒

がくしゅうしゅうかん み つ
学 習 習 慣 を身に付けるために

ようじ ほいくえん 6
幼児（保育園）
「基本的な学習習慣の芽生えを育む時期」

しょうがっこう ねんせい 8
小学校1・2年生
「基本的な学習習慣を身に付ける時期」

しょうがっこう ねんせい 10
小学校3・4年生
「自主的な学習習慣を身に付ける時期」

しょうがっこう ねんせい 12
小学校5・6年生
「自主学習の習慣を身に付ける時期」

ちゅうがっこう ねんせい 14
中学校1年生
「新たな自主学習の習慣を身に付ける時期」

ちゅうがっこう ねんせい 16
中学校2・3年生
「進路選択・進路実現の時期」

はじめに

◇ 西川町学校教育目標

「ふるさとを愛し 高い志をもち

ふなのようにたくましく ともにまなぶ子ども」

ふるさとを愛し 高い志をもち ふなのように たくましく ともに学ぶ子ども

子どもの未来につながる
土台を構築する教育

地域との結びつきを
大切にしたい教育

世代をこえ
かかわりあう教育

子どもの成長を連続した15年間で考えた教育（保小中一貫教育）

「子どもの未来につながる土台を構築する教育」とは

集団の中で切磋琢磨しながら、知・徳・体の調和した力を育む

「地域との結びつきを大切にしたい教育」とは

恵まれた自然や歴史・文化などを活かし、地域・家庭・学校が連携し、
西川町らしい体験的な学びを通して、人間の根っこに当たる部分を育む

「世代をこえ かかわりあう教育」とは

様々な交流を通して、自己有用感や心やいのちを大切にしたい心

「保小中一貫教育」の、系統的・継続的な教育により、子ども達に
確かな力をつけていく。

そのため 学校では・・・・・・・・・・授業の充実と家庭学習の意欲付け
西川らしい体験学習の充実
学校と家庭が連携して・・・家庭学習の習慣化
基本的生活習慣の定着
家庭では・・・・・・・・・・ふれあう時間の確保

このような考えから、各発達段階におけるめざす子どもの姿や家庭学習における指針をここにまとめました。

「西川町の学校教育がめざす子どもの姿」では、保・小・中時期における子どもの姿の目安を示しています。

「学習習慣を身に付けるために」では、保育園から中学校にかけての各発達段階に応じた家庭学習のイメージを示しています。

西川町のすべての子どもたちに家庭学習の習慣化が図られるよう、この「自ら学び続ける子どもを育てるために～家庭学習のすすめ～」を参考にいただければと思います。

最後に、子どもには、発達段階に応じて望ましい基本的生活習慣を身に付けさせ、家庭学習の習慣化を図るために、子どもが自発的・計画的に学習に取り組むことができるよう次のような保護者の支援が求められます。

【モデルとしての役割】

保護者は、子どもにとってもっとも身近なお手本です。保護者自身が読書する姿や興味を持ったことについて学ぼうとする姿勢を見せることが大切です。また、「あいさつ」や「早寝、早起き、朝ごはん」、「整理整頓」など基本的な生活習慣についても保護者が率先して実行することが大切です。子どもは身近な大人をモデルに模倣したり学んだりしながら成長していきます。

【アドバイザーとしての役割】

子どもが、やる気を持って学習に取り組もうとしたとき、様々な悩みや岐路にぶつかります。そんな時、保護者はよき相談相手、あるいはアドバイザーとして子どもの心理的な支えになってあげることが大切です。そのためには、日頃から子どもの生活に関心を持ち、子どもとコミュニケーションを図っておくことが大切です。

【環境を整える役割】

情報化が進み、メディア機器等が日々発達し、子どもたちは様々な誘惑の中で生活しています。子どもの回りには、携帯電話、ゲームやテレビ、漫画など子どもの興味を引くものがたくさんあります。集中して学習できる場所とリラックスできる場所を分けたり、携帯電話のきまり、テレビやゲームの時間を決めたりするなど、子どもが学習に集中できる環境を整える手助けをすることも大切です。

これらを参考にしながら、子ども達の家庭学習を確立していきましょう。

にしかわまち こ すがた
西川町がめざす子どもの姿

	幼 児 (保育園)	児 童 (小学校)	生 徒 (中学校)
人間関係 づくり	<ul style="list-style-type: none"> 自分の誤りを素直に認め、「ごめんなさい」と謝ることができる。 感謝の気持ちを持って「ありがとう」と伝えることができる。 相手の気持ちを考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の誤りを素直に認めたり、寛容な態度で相手を許したりすることができる。 相手の気持ちを考え行動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを察したり、周囲の状況を判断して行動したりすることができる。
お手伝い 地域との 関わり	<ul style="list-style-type: none"> 家族と一緒に簡単なお手伝いができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族の一員として決められたお手伝いを続けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での役割を自覚するとともに、地域の行事にも積極的に関わろうとする。
自主 律己	<ul style="list-style-type: none"> 決まりを守り、正しいことと悪いことがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 善悪の判断を正しく行って行動できる。 自制心を持って、危険を回避することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 状況を把握し、主体的に判断して行動できる。 自他の存在を意識し、いのちを大切にすることができる。
メディアとの 関わり方 ・テレビ ・動画 ・ゲーム ・SNSなど	<ul style="list-style-type: none"> 家族と一緒にルールを決め、守ることができる。(時間、場所等) 	<ul style="list-style-type: none"> 家族と一緒にルールを決め、守ることができる。(時間、場所等) インターネット使用のマナーを知り、守ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族と一緒にルールを決め、守ることができる。(時間、場所等) SNSを使用する際には節度やマナーを守ることができる。

1 生活面における子どもの姿

	幼児 (保育園)	児童 (小学校)	生徒 (中学校)
基本的な 生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しく食事をとる。 十分な睡眠をとる。 きまった時間に登園する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に合った生活リズムをもっている。 時間を守って行動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を有効に使いリズムある生活を送ることができる。
早寝・早起き・朝ごはん・排便・家庭学習などの習慣化			
あいさつ 礼儀	<ul style="list-style-type: none"> 元気にあいさつができる。 呼ばれたら返事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 時と場に合ったあいさつや返事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 時と場、相手を考え、適切なあいさつや言葉遣いで話することができる。
聞く 聴く	<ul style="list-style-type: none"> 相手の顔を見て話を聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話を聞いて感想をもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話を聞きながら、自分なりの考えを持つことができる。
話す 伝える	<ul style="list-style-type: none"> して欲しいこと、やめて欲しいことを相手に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 悩みや困りごとを家族や先生や友だちに話すことができる。 	
集団行動	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な指示を理解して行動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団生活のルールを守って行動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共の場において、マナーを守って行動することができる。

テレビ、インターネット、その他のメディアやゲームなどへの依存は、生活リズムを不規則なものにしてしまいます。また、心身の健全な発達の妨げになるともいわれています。ゲームなどは、あらかじめやめられないような工夫がされています。場合によっては大人が管理することも必要です。

2 学習面における子どもの姿

	幼児 (保育園)	児童 (小学校)	生徒 (中学校)
学習 態度	<ul style="list-style-type: none"> 先生の話を静かに聞くことができる。 まねをしたり、動きを合わせたりしながら、遊びや学びを楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習用具を自分で準備できる。 指示を理解し、主体的に行動することができる。 発問の意図を理解し、自分の考えを発表できる。 	<ul style="list-style-type: none"> めあてを持って、学習に取り組むことができる。 他人の意見を尊重しながら、自分の考えを発表したり、行動したりすることができる。
学習 習慣	<ul style="list-style-type: none"> 箸や鉛筆の正しい持ち方ができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日決まった時間に宿題などの課題に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間を生活リズムの中に位置付けている。 定期テストなどに向け、計画的に課題を解決していくことができる。
読書活動	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせなど、日常的に図書にふれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に読書に取り組んでいる。 	
提出物 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳や配付物を出すことができる。 <p>(家族や先生の声かけ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 宿題や提出物を自分で忘れず提出することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 宿題などの課題は期限を守って提出することができる。



学習習慣を身に付けるために

幼児（保育園）

「基本的な学習習慣の芽生えを育む時期」

「学習への準備」のポイント

- ◇ 「早寝・早起き・朝ごはん」を中心に生活のリズムを整え、基本的な生活習慣を身に付ける。「朝うんち」の習慣化。
- ◇ 「食事・着替え・排泄・後片付け」など、自分でできることを増やす。
- ◇ 日常生活や遊びの中で「話す・聞く・読む・書く・数える」に興味を持ち、おうちの人とやってみる。
- ◇ 箸や鉛筆を正しく持てるように、少しずつ練習する。

家庭での取り組み（例）

【話す・聞く】

- 保育園のできごとをおうちの人に話したり、簡単な質問に答えたりする。「いつ・どこで・だれが・どうした」「その時どんな気持ち？」
- 絵本の読み聞かせや昔語りを聞く。感想を話す。

【読む・書く】

- おうちの人と一緒に絵本を読む。（文字にふれる）
- クレヨンや鉛筆を正しく持ち、好きな絵、直線や曲線、丸や三角、四角などの形を描く。持ち方や「かくこと」に慣れる。
- 自分の名前（ひらがな）を読んだり書いたりする。

【数える】

- 1から10まで順序よく数える。(ひとつ・ふたつ・みっつ…、いち、に、さん…) あめなどを1つずつ指さしながら数える。
- 「上・下」, 「前・後ろ」, 「右・左」がわかる。
- 時計に興味を持ち、おうちの人と「〇時」などと読んでみる。

<家庭での支援>

- 一緒に体を動かし遊びましょう。(走る、投げる、蹴る、ぶらさがる、でんぐり返しなど)
- テレビなどを消し、静かなところで話を聞いたり、読み聞かせたりする時間をつくりましょう。
- 「食器運び」「洗濯物をたたむ」などの仕事を一緒にしながら、経験や言葉を増やしていきましょう。
- 上記のことをするときには、子どもに決して無理強いせず、クイズや遊び感覚で、親も一緒に楽しみましょう。

<ゲーム機の使用やテレビ・動画等の視聴について>

- 大人が内容を確認して、使わせたり見せたりしましょう。
- 「時間を守る」「〇〇までで終わり」「見終わったら消す」など約束を決めて、小さいうちから習慣化しましょう。
- 「メディア 対 子ども」の世界を作るのではなく、親子で一緒に視聴して会話を楽しみましょう。



生活習慣の自立が「自分から学びに向かう力」を支えます。なかでも「食べる」ことは「生きる」こと。何でも食べて健康な体をつくるのはもちろんですが、「箸を正しく持つ」「食器を持ち、良い姿勢で食べる」、「苦手なものでも少しはがんばって食べる」、「食事中は席を立たない」「後片付けができる」などは学習習慣を身に付けることにも通じます。

小学校1・2年生

「きほんてき基本的な学がく習しゅう習しゅう慣かんを身みに付つける時期じき」

学習のポイント

- ◇ じかんをきめ、ゆうごはんまえにしゅくだいをおわらせる。
- ◇ まいにち30分くらい、かんがえてべんきょうする。
- ◇ しゅくだいやれんらくぶつを、かぞくにみせる。
- ◇ じかんわりやもちものを（かぞくと）じゅんびする。

家庭学習の内容（例）

【こくご】

- 「、」「。」にきをつけて、おおきなこえですらすらよめるように おんどくをする。（まいにち）
- かきじゅんにきをつけて、ひらがな、カタカナ、かんじのれんしゅうをする。（ていねいに ゆっくりと）

【さんすう】

- たしざん・ひきざん・かけざん(九九)など、ただしく、はやくけいさんできるようにれんしゅうする。（けいさんカードなど）
- まちがったもんだいは、やりなおして、わかるようにする。
- とけいでじこくをよむ。

【そのた】・・・やすみのひなど

- けんばんハーモニカのれんしゅうをする。
- えほんなど、かんたんなほんをよむ。
- たのしかったことやうれしかったことを、につきなどにかく
- いきものやくさばなのかんさつをして、えやぶんでかく。
- 「タブレット」でドリルパークなどのもんだいにとりくむ。

＜家庭での支援＞

- ・ 学習を始める前にテレビなどを消します。静かな学習環境をつくりましょう。
- ・ 興味・関心・学年に応じた本を子どもの近くに置いておきましょう。（家族による読み聞かせなどもお勧め）
- ・ 箸や鉛筆の持ち方、座る姿勢、身の回りの整理整頓など、身辺自立の力をこの時期に身に付けさせましょう。
- ・ 終わった宿題や学校からの連絡やお便り、明日の準備等を子どもと一緒に確かめ、一人で準備ができるように育みましょう。放課後子ども教室（プラン）で宿題をしてきた場合でも、音読や計算カードはご家庭で、必ず聞いてください。
- ・ 学習時間を決めさせ、学習中はできるだけそばにいて、ほめたり、アドバイスしたりしましょう。
- ・ 一緒に買い物をしたり、時計を読んだりしながら、子どもの生活経験を豊かにしていきましょう。

＜ゲーム機やタブレット等の使用、動画等の視聴について＞

- ・ 大人が内容を確認して、使わせたり見せたりしましょう。
- ・ 「1日〇〇分まで」「使っている時間を守る」など「わが家の約束」を決め、ルールを守って使わせましょう。
- ・ ゲーム・動画等の内容や、家庭でのルールが守られているかについて、目を配りましょう。



「早寝早起き」、「規則正しい食事」、「朝の排便」など基本的な生活習慣を身に付けることは、学習習慣の定着に欠かせません。また、外遊びなどを通して運動経験を豊かにしていく時期でもあります。

「読み、書き、計算」の基礎的・基本的な内容を学習する時期です。繰り返し丁寧に学習することが大切です。

小学校3・4年生

「自主的な学習習慣を身に付ける時期」

学習のポイント

- ◇ 自分で学習する時間を決め、夕食前に宿題を終わらせる。
- ◇ 毎日40分程度、集中して勉強する。
- ◇ 宿題のほかに、自主学習に取り組んでみる。
- ◇ 終わった宿題や学校からの連絡物を、うちの人に見せる。
- ◇ 次の日の時間割りや持ち物を自分で準備する。(見守り)

家庭学習の内容(例)

【国語】

- 会話文に気をつけて、すらすらと読めるように音読練習をする。
- 詩の暗唱をする。
- とめ、はね、はらい、送り仮名に気をつけて、正確に漢字が書けるように練習する。
- 出来事やその時の気持ちを日記に書く。
- いろいろな種類の本を読む。

【算数】

- かけ算やわり算など、正しい計算の仕方が身につくように練習をする。(計算カード、ドリルなど)
- 三角定規、分度器、コンパス等を正確に操作できるように練習する。

【その他】

- リコーダーで習った曲の練習をする。
- 国語辞典や漢字辞典を身近に置き、使い方に慣れる。
- タブレットを活用し、復習や予習に取り組む。

<家庭での支援>

- ・ 家族の温かい励ましや助言により子どものやる気を引き出し、自分から机に向かい集中する姿勢を育てましょう。
- ・ 宿題や持ち物点検、学習する場所の整理整頓など、自分でできるように見守りましょう。
- ・ 放課後子ども教室(プラン)で宿題をしてきた場合でも、音読などはおうちの方が聞いてあげてください。
- ・ 学校からの連絡やお便りなどを、自分から親に手渡す習慣をつけましょう。
- ・ 社会や理科で学習する地域社会の文化や産業、自然などにふれる体験をさせましょう。

<ゲーム機やタブレットなどの使用について>

- ・ 保護者と子どもが話し合って「わがやの約束」を決め、ルールを守って使わせましょう。
例：「夜8時になったら親に返す」「1日〇〇分まで」等
- ・ ゲーム・動画等の内容や、家庭でのルールが守られているかについて、目を配りましょう。
- ・ 各家庭で責任を持ち、フィルタリングを行って子どものSNS被害の未然防止に努めましょう。

自立心が芽生え、自分でやろうとすることも多くなってきます。

語彙(ごい)も増え、抽象的な思考もできるようになってきます。

急に勉強が難しくなったと感じる時期でもあります。自信が持てるように声かけをお願いします。



しょうがっこう ねんせい
小学校5・6年生

じしゅがくしゅう しゅうかん み つ じ き
「自主学習の習慣を身に付ける時期」

がくしゅう

学習のポイント

- ◇ まいにち ぶんいじょう もくひょう じぶん がくしゅう じかん き
毎日60分以上を目標に、自分で学習する時間を決めて
べんきょう
勉強する。
- ◇ きょうか じしゅがくしゅう と く
いろいろな教科の自主学習に取り組む。
- ◇ がくしゅうけいかく た みとお も べんきょう
学習計画を立てるなど、見通しを持って勉強する。
- ◇ お しゅくだい がっこう れんらくぶつ ひと み
終わった宿題や学校からの連絡物をうちの人に見せる。
- ◇ つぎ ひ じかんわ も もの じゅんぴ かくにん
次の日の時間割りや持ち物を準備する。(確認)

かてい がくしゅう ないよう れい
家庭学習の内容(例)

こくご
【国語】

- すらすらと読めるように音読練習をする。(毎日)
- し はいく あんしょう ろうどく
詩や俳句を暗唱したり、朗読したりする。
- きょうかしよ み か じゅん かたち よ かた おく がな き
ドリルや教科書を見て、書き順や形、読み方、送り仮名などに気
をつけてかんじ れんしゅう
をつけて漢字の練習をする。
- こころ のこ かん ぶんしょう あらわ
心に残ったことや感じたことを文章に表す。
- しゅるい ほん えら よ
いろいろな種類の本を選んで読む。

さんすう
【算数】

- まちが けいさん せいかく く かえ れんしゅう
間違えやすい計算なども正確にできるよう、繰り返し練習する。
- ドリルやワークなどを利用し、りょう せつきよくてき ぶんしょうもんだい と く
積極的に文章問題にも取り組む。

た
【その他】

- 資料集や地図帳、辞書などを身近に置き、調べる習慣を付ける。
- その日学習したことを振り返ったり、調べたりする時間をつくる。
- 宿題とともに自主勉強ノートやタブレットを使って復習や予習に取り組む。
- 新聞に目を通し、気になる記事を要約したり、自分の考えを書いたりする。
- アルファベットを書く練習をしたり、英語の絵本を読んだりするなど英語に触れる。

<家庭での支援>

- ・ 家族や地域の人との関わりを大切に「人の役に立った、他人に喜んでもらえた等」の自己有用感を高めましょう。
- ・ 学習する場所と時間を決めさせ、計画を立てて学習が進められるように励ましましょう。
- ・ 家庭科などで学習した内容を家庭生活の中で実践したり、活かしたりする機会をつくりましょう。

<情報通信機器の使用について…スマートフォン・タブレット・ゲーム機 等>

- ・ 家庭内で話し合い、ルールを守って使用させましょう。
- ・ ゲーム・動画等の内容や、家庭でのルールが守られているかについて、目を配りましょう。
- ・ 各家庭で責任を持ち、フィルタリングを行って子どものSNS被害の未然防止に努めましょう。



学習内容が多くなり、論理的な思考や抽象的な思考が求められます。学習の楽しさを感じられる時期でもあり、目標を持たせて学習に取り組むことが大事です。また、生活習慣を見直し、リズムある生活を心がけさせたいですね。

中学1年生

「新たな自主学習の習慣を身に付ける時期」

学習のポイント

- ◇ 家に帰ったら、すぐに学習に取り組む習慣を身につける。
- ◇ 毎日70分以上は家庭学習をする。
- ◇ 予め計画を立て、学習と部活動の両立を図る。
- ◇ 授業の復習に特に力を入れる。

家庭学習の内容（例）

【国語】

- 教科書やワークを使用し、繰り返し漢字や文法の学習を行う。

【数学】

- 正確に素早く計算ができるように、授業で扱った計算や、ワークの計算を何度も繰り返す。
- 計算問題は途中の式を書くことで、どのように考えたのかがわかるようにする。
- 間違えた場合は途中の式を見直し、どの過程で間違えたのかを明確にする。
- 復習を帰宅後にしっかり行い、その日に習った学習内容をきちんと身に付ける。

【英語】

- 英単語を、しっかり英文として覚える。
- 教科書等の英文を何度も声に出して音読する。
- 予習をして授業に臨み、帰宅後復習を行い、その日に習った学習内容をきちんと身に付ける。

【その他】

- 宿題とともに自主学習ノートを使って毎日の復習に取り組む。
- 帰宅後に、その日の授業を振り返る時間をつくる。
学習したことを確認し、確実に身に付ける。
- 重要語句や専門用語をチェックし、正確に漢字で書けるように覚える。
- 計画的に自ら進んでワークなどに取り組み、テスト前に慌てないようにする。
- 新聞をよく読み、社会の動静や身近な出来事に関心を持つ。
- 身近な自然現象に目を向け、自然の不思議さに関心を持つ。
- 朝読書をきっかけに、家庭でもいろいろな種類の本を自ら選んで読む。
- 心に残ったことや感じたことを生活記録ノートなどに文章で表す。

<家庭での支援>

- ・ 家族や地域の人との関わりを大切に「人の役に立った、他人に喜んでもらえた」等の自己有用感を高める。
- ・ 学習する場所と時間を自分で決めさせ、計画的に学習が進められるようにアドバイスする。(自律を促す)
- ・ 将来のことを話し合いながら自分の進路について考えさせ、学習に取り組めるようにする。(自立を促す)

<情報通信機器の使用について…スマホ・タブレット・ゲーム機 等>

- ・ 家庭内で話し合い、ルールを決めて使用させる。
- ・ 各家庭で責任を持ち、フィルタリングを行って子どものSNS被害の未然防止に努める。
- ・ SNSの使用に関し、過度にならないように目を配る。

中学校2・3年生

「進路選択・進路実現の時期」

学習のポイント

- ◇ 生活リズムの中に学習時間をしっかり位置づける。
- ◇ 毎日、2年生は80分以上、3年生は90分以上家庭学習の時間を確保する。
- ◇ 進路選択、または、進路実現のための計画を立て、見通しを持って勉強する。

家庭学習の内容（例）

【各教科】

- 各教科のワークや受験用テキストを有効に活用して学習する。間違いを確かめたり、繰り返し見直したりしながら、確かな知識を身につける。
- 各教科の宿題は、要点の復習や練習を重視しているので必ずその日に終える。

【自主学習ノート】

- 復習や予習したことや苦手な教科や内容についてノートにまとめる。
- 課題、問題、振り返り、練習を大切に自主学習を進める。

【その他】

- テレビのニュース番組や新聞等から、政治や経済、社会情勢などについての情報を得ておく。
- 読書

<家庭での支援>

- ・ 子どもの考えを聞きながら、子どもと一緒に進路選択や将来のことについて考える。
- ・ 家族や地域の人との関わりを大切に「人の役に立った、他人に喜んでもらえた等」の自己有用感を高める。

<情報通信機器の使用について…スマホ・タブレット・ゲーム機 等>

- ・ 使用のルールを決め、トラブルや被害の未然防止と共に、進路実現のための時間を共有し、学習内容を充実することのできる環境づくりを目指す。

授業こそもっとも大切な学習の場です。一時間一時間の学習が大切であり、9教科すべての授業に真剣に取り組めます。

授業で学習したことをもとに、家庭学習では次のものを有効に活用して学習していきます。

- ・ 各教科のワーク・プリント
- ・ 自主学習ノート
- ・ 宿題プリント（各教科であります。）
- ・ 長期休業課題（サマーワーク、学年のまとめのテキスト）
- ・ 受験用テキスト（中2の12月より）

など



自ら学び続ける子どもを育てるために
～ 家庭学習のすすめ ～

発行日 令和6年6月
発行代表者 学校教育センター所長 林 敏幸
発行所 西川町学校教育センター
協力 西川町教育委員会 まなぶ課
西川町立にしかわ保育園
西川町立西川小学校
西川町立西川中学校